

朗和基督自教會週報 一月十一日

白石 清  
 白石 清  
 白石 清

◆今週の標語

「終に言はん、  
 汝ら主にありて、  
 其の大能の榮威、  
 に體りて頌め給へ、  
 (エペソ六章十節)」

◆聖日禮拜順序

一月十四日 午後二時 教會堂  
 司公 白石 牧師

恭 樂 (五二六)  
 頌 讚 (五二六)

招 拜 及 主 禱

讚 美 歌 (五五)

聖書拜讀 (ニヤソ六十一セ)

祈 禱

讚 美 歌 (五五六)

泛 教 奏 琴 牧 師

「勇往邁進」

祈 禱

讚 美 歌 (三七九)

獻 祭 司公 佐々木 牧師

報 告 全

頌 讚 (五二六)

祝 禱

○英語部諸事會

○禮拜十日 朝十時 奉獻會堂

司公 坂上 牧師

泛 教 ギヤロット博士

「イエス」(ライオンマシ)

○日曜夜の集會を臨時休會して奉

業祝敬式に奉加。公會堂にて(午後七時)

授教、マール女光教會

J.R. フレドマン 牧師

○青年祈禱會(十日) 夜七時

少年部一東金銀、坂上 牧師

○日曜學校教師會

十二日(金) 午後七時より教會  
 諸教師、御出席にて。

○多幸多望なる新年

白石 清

昔年の湯王は元来小藩の土であつたが朝夕用ふる盟に、  
 海に日々新にせば、日々新なりといふ一句を明記して  
 絶之不自覺自前に努めたりて、終には支那四百餘州を平定  
 し、太平六百年の基礎を築いた程の明君となつた。日々新  
 新にせば、日々新なり、といふ蓋し至言である。我々は新年  
 始めに「たう」といふ挨拶を習慣としてゐる。即ち習慣以  
 外の河物でもよい、何かおめでたい何か譯か何かの  
 湯王が日々新にせば、日々新にせばと云つた様に、日々  
 に幸福にせば、日々新にせばと云ふことになる。即ち「たう」に  
 なるのちあつて、旧來の習慣を徒らに繰返す事にもつて、何  
 のよきものも来る筈は無い。此節のやうに社會が何の  
 何の行詰つた時代に、おめでたいさうな百方造繰返しと見え  
 とちろで利益ありさうな道理はない。或人の戦時中  
 敵國人が柵内に在りながら、餅も食べ、酒も飲める、平時と  
 変わりない正月が出来事等は、家に、おめでたいと云つた。成  
 程一理はある。欧州の戦地や支那印度あたりには今日の  
 食物なく飢饉に泣いて居る者達が無数下り下り傳へられ  
 てゐることから考へると、確かに幸福に相違ない。だが同  
 胞の多くが今や所内の生活に悩んで、食うては腹を起きて  
 は食ひ、暮すは浪花節で何と云つて今日の一日を面白  
 可笑しく暮さうとのみ計り、何等自覺自前せんとは思はぬ  
 有様を淋しく思ふ。使徒パウロは毎毎に老衰する自己  
 を承認してゐるが、同時に、それとは及新に日毎に新鮮する  
 靈力を知へられようといふ驚くべき体験に就て述べてゐる。  
 「此致に我等は落膽せず。我らから外なる人は驚くれども、我ら  
 多人は日々新に新なり」(コリント)と、即ち神の御靈を宿せる新  
 生命は、艱難辛苦に反比例して、一難を経る毎に強められ  
 ることを學ぶ。嘗て彼一人のみならず、誰にても、人もし  
 基督に在りて新に造りられたる者也。古きは既に過去去り、視  
 新しくありたり。して信仰の妙趣を享受してゐる。  
 我等は今年我らの前途に如何なる困難が待伏せてゐるの  
 を知りぬ。去のし、凡ゆる地上の苦難に勝ち給へし基督に  
 在りて我等に最早懼れは、我らは既に信仰を以て武装せ  
 し新人である。一九四五年よ、汝等難を以て我を祝福せん  
 とす。懐い哉、多幸なる新年よ。

○婦人會役員會

十二日(金) 午後七時より

手原夫人宅にて(三〇、四、A)

○聖餐式

十四日、佐々木牧師司式、下三礼  
 拜、六、堂ニシテ、皆御出席を祈る。

○聖書研究會

十六日(土) 午後七時半

教會堂、指導員、手原中校

○祈禱會

十七日(日) 午後七時半

